

高津区おはなしアーカイブ

●大竹 寿一（おおたけ ひさいち）さん

昭和17年生まれ 73歳

川崎市高津区久地1丁目在住



◆先生に「オリンピック選手になれる」 って言われていたんです

子どもの頃から、僕は運動、特に体操です。ね、マット体操なんかが得意だったんです。

バック宙返りなんかもできたんですよ。大勢が見ている前で模範演技をやらされることもよくあって、そのおかげで僕のことを覚えてくれている人が多かったですよ。

「あ、体操やってた子だ」ってね（笑）。

体操指導が得意な先生がいらして、その先生が僕がラジオ体操しているのを見て

「君は将来オリンピック選手になれるよ！」って言ってくださったんです。

なにしろ身体を動かしているのが好きで、そうそう、津田山陸橋が出来た時（昭和29年）には、陸橋の上をローラースケートで端から端まで走り回っていましたね。当時はほとんど車も走っていないで、陸橋の上が貸し切りのローラースケート場みたいなもんでしたからね。気持ち良かったなあ。

近所に“機械船”（この名称は本来、砂利採取船のことを指す名前なんですけど、僕らはそう呼んでました）っていう池で飛び込んだり泳いだりしましたねえ。遊泳禁止だったんだけどね。台風の日にも泳いで先生に怒鳴られたっけな（笑）。

とにかく“やんちゃ坊主”でねえ、きかん坊でしたから、学校からの呼出なんかも度々あって、母をだいぶ手こずらせていましたよ（笑）。

◆父は努力家でしたね

三人兄妹の長男で、弟と妹がいました。今も皆元気にしています。今年96歳になる母も元気にしていますよ。父は87歳で他界しましたがね。

父は戦争には行っておりません。日本光学の指定社員だったということで。

戦後、新しく公認会計士の制度ができた時、その資格を取るため毎日4時間、黙々と勉強してました。“すごいなあ、僕には真似できないなあ”と背中を見てました。

試験に受かったときは、大変な快挙だという
ことで、新聞のニュースで紹介されまし
たよ。

父は努力家でしたねえ。その分長男の僕
にも厳しかったですけどね（笑）。

◆毎日よく遊んだね

私は幼いころ2年間ほど福島へ疎開して
いました。家族も一緒だったので、特に寂
しいということはなかったですね。白米も
食べられたように記憶しているし、広々と
した自然の中で遊べたのはよかったなあ。

終戦後、子ども時代を過ごしたのは日本
光学の社宅でした。100世帯ほど住んで
いましたかね。日本光学を退職した人でも、
ずっとそこにいましたよ。なんとも大らか
な、ノンビリした時代だったんですね（笑）。

たいていは社宅の子どもたちと遊んでま
したね。男の子はベーゴマ、メンコ、けん
玉。竹馬は、山から竹を切ってきて自分で
作っていましたね。

独楽回しもよくやりました。僕、上手だ
ったんですよ。ヒモの上を綱渡りみたいに
独楽を回しながら渡らせるの。その技をで
きるのは少なかったですね。

女の子は石けり、おはじき、まりつき、
お手玉などでしたかね。

津田山にはものすごく大きな防空壕の跡
地があつてね、そこに色んなものが置いた
ままになっていたんです。そういう物を使
っているような遊びをしてましたね。

皆で葉莢拾いもよくやったなあ。葉莢が
落ちていることがあつてね、それを拾って
クズ屋に持っていくと買い取ってくれるん
です（笑）。

子どもが遊ぶには良い場所でした。

◆父に「体操では食えん！」と一蹴さ れました

僕は幼稚園には行きませんでした。

小学校は高津小学校に通い、4年生の頃
から給食が始まりました。パンと脱脂粉乳
のね。美味しいと評判だったのは、揚げパ
ンとカレーですね。そのメニューの日は皆
楽しみにしていて、おかわりしていました。

そのまま進めば高津中学校に行くことにな
るわけですが、当時ずいぶん学校が荒れ
ていてね、母が心配してね、都内の大井町
にある伊藤中学に行きました。

母が何を心配したかっていうとね、苛め
られるとかじゃなくて、僕がそのガキ大
将になったら困るって、そういう心配だっ
たみたいですよ（笑）。

高津中学にはね、体操の指導に非常に優
れた先生がいらしてね。その先生の指導が
受けたくてねえ。放課後、こっそり高津中
の生徒に紛れ込んで教えてもらってまし
たよ。高津中の生徒じゃないってバレた時
には、先生、本当にビックリしておられたな
あ（笑）。

高校は武蔵小杉にある法政大学第二高等
学校に行きました。

僕自身は体操が好きだったし得意だったので、そちらの方面に進みたかったんですが、父に「体操では食えん！」と一蹴されまして。「大学は早稲田か慶応に行け！」と厳命されました。

父親の命令は絶対でしたからね、それまであんまり勉強していなかったんですが、仕方がないから頑張りましたよ(笑)。

そうしたら早稲田の商学部に受かりましてね。小学校の担任だった先生が「我が校から早稲田へ現役合格者がでた」って自慢してくれまして、そのおかげで学生時代にずいぶん家庭教師のアルバイトができました(笑)。

◆緑が多く桜が綺麗な地域です

運転免許は大学在学中に取得しました。

昭和43年頃に東名高速道路ができて、その頃はサラリーマンになっていましたが、浜松の友人のところへゴルフやりによく行きましたね。

結婚したのは昭和44年、28歳の時です。社内結婚でした。娘が2人いて、下の娘はアメリカ人と結婚して、シカゴで暮らしています。

津田山に住まいを構えたのは平成元年ですね。緑も多く、住環境としてとてもいい地域です。

春には霊園の桜が見事ですし、二ヶ領用水の桜も綺麗ですよ。円筒分水っていう立派な文化財もあるしね。

◆久地と下作延をあわせた地域が津田山なんです

「津田山」はJRの駅名にもなっていますが、現在の住居表示としては「津田山」という地名はないんですよ。

溝口まで電車を走らせた多摩川電気鉄道の社長が津田さんといってね、その名前がちなんで、久地と下作延にまたがる丘陵一帯が「津田山」と呼ばれていたんです。津田山という地名を残してほしいという声も多かったんですけれどね。

町内会は久地と下作延にまたがっておりますが「津田山町内会」と言う名を残しています。

僕は平成5年から副会長を、その後平成10年から丁度10年間会長を務めました。

文化人の多い地域でね、中でも山田太一さんにはお世話になりましたねえ。下作延小学校の20周年記念のときには講演していただきました。無料で引き受けてくださった上にお祝いまでくださったんですよ。

とても気さくな方で、ご家族で納涼祭にもよく来ておられました。

町内会は昭和53年に80世帯ほどで発足したのですが、現在は580世帯ほどになっております。

福寿会(高齢者の会)、青年部、婦人部、子ども会などがあり、ボランティアやスポーツ、緑の保全活動など、活発に行っています。

町内会全体の恒例行事としては、毎年夏

に納涼祭、暮れに餅つき大会を行っています。

平成25年には50周年記念誌を発行しました。記念誌の題字は山田太一さんが書いてくださいました。

◆子どもが増えています

この地域も高齢化の問題はありますが、他とはちょっと違うかもしれません。

津田山は坂の上に位置するので、高齢になってくると登るのが辛くなってきますでしょう？そうすると、坂のないところへ転居する方が多いんですよ。

でも、引っ越された跡地はたいてい戸建てが3棟程建ちますし、マンションには小さいお子さんがいる若い世代が入居するでしょう？だから津田山町内会では子ども会の人数が増えてきているんですよ。嬉しいことですね。

いつの時代も人と人との繋がりは何より大切なことですから、これからもお互いに「ありがとう」という気持ちをもって、育てあって欲しいですね。

(平成27年7月13日取材)